

# アメリカと中国もたれ合う大国(日経出版)

スティーブン・ローチ著

( 西洋人として米中経済関係で最も詳しい論者の1人 )

## 第1次グローバル化(19世紀後半～20世紀前半)

～船に続いて鉄道が交易手段

## 第2次グローバル化(20世紀前半以降)

～コンテナ船、精緻な鉄道システム、高度化したトラック部隊、一部飛行機、1990年代のインターネット物流著しく改善

{ 5千万世帯に普及した年数 }

ラジオ38年 テレビ13年 インターネット5年

\*ITと通信の製品＝世界1位1990年日本 2004年には世界5位に後退

\*IT世界輸出1990年米国1位19%→2004年第2位11%

通信 同上 2位14%→ 3位 7%

\*中国は2000年以降の改善でIT13位、通信機器5位→いずれも2004年1位

{ 米国労働者の海外外注化 }

～ITを駆使する外国のホワイトカラー労働者に代替される

推計＝291種類の職業の詳細な分析結果、全米国人労働者22～29%失業可能性  
2012年米国対中国貿易赤字3150億ドル米国全体7280億ドルの43%2位日本10%

{ 米国は貯蓄しない国 }

経済全体広義の国内貯蓄(企業・家計・政府)2008年マイナス

2009年△2%、～12年+0, 4%で近代史上主要国として最大の貯蓄不足!

これは経済成長に重大な影響を及ぼす。

{ 米国の経常収支 }

1982年以降でマイナスでない年は1年だけ、2012年△4400億ドル

世界第1位、2位は約5分の一△900億ドル、2003～12年の10年間で累計  
△5, 8兆ドルになり、貿易赤字は累計△7, 1兆ドル

### { 中国の貯蓄率 }

(グロス)2012年GDPの49, 5% (米国は2009~12年GDPの12%)

~経常収支黒字2013年は2390億ドルで世界最大

~外貨準備1990年は110億ドル、2013年 3, 5兆ドル

### { 1980年代日米間の貿易赤字 }

平均で40%の拡大で世界経済を緊張させた結果は

~日本パッシング・円切り上げ・資産バブル失われた20年へと突入

~中国の与えている現在の脅威は日本以上で当時の米国は貯蓄国で平均GDPの5, 7%あった...2005年以降の貯蓄率は8分の1と約0, 7%に低下している。

### { 世界の加工輸出総額67%は中国が占めている(2000~8年) }

~世界最大の衣料製造業者「利豊」は外注代理店~グローバルな供給チェーンマネジャーで工場は持たず、世界40ヶ国15, 000社以上のサプライヤーを結んだネットワークの上にある、但し中国の付加価値は販売価額の5%に過ぎない、ところが公式には100%中国からの輸出として統計される。~2国間貿易統計で中国に帰属する付加価値はハイテク製品を中心に過大評価されている、中国の対世界輸出総額の内、36%は外国の部品、中国のハイテク製品輸出の80%は国外調達

### { 米国の貿易赤字 }

第1位中国のシェヤーを2位~10位の9ヶ国に於ける対米輸出額のシェヤーで加重平均すると2010年1時間人件費中国2, 3ドル、それ以外の国では26ドルと11倍の格差がある、米国のウォールマートは中国抜きでの仕事は不可

### { 中国の驚くべき競争力の源泉 }

広範囲にわたる助成策によるもの~割安のファイナンス・選別的な価額設定・差別的な課税・政府支援を受けた新技術の培養

~特許取得2012年には135, 000件新規特許取得、2009年比25%増、日米に次ぐ世界第3位、1995年~2008年世界の増加の内35, 6%を占める、米国は22%

### { サイバー攻撃、脅威主体の上位 }

中国は全侵入の30%、ルーマニア28%、米国18%

### { 不動産バブル問題 }

～中国では人口100万人以上の都市が2025年までに220以上誕生する。  
今の中国の2倍、アメリカの8倍、今後20年間に5, 100ヶ所の都市型複合施設が  
建設される見込み

### { 中国の銀行問題 }

～4つの大手国有銀行が中央銀行から分離、商業銀行業務の本格化は1980年代  
半ば以降「国が割り当てた政策ローン」を国有企業向けに供与したために財政代  
理人のようなものであった、その結果、不良債権に悩まされ続け、2000年代前半  
にGDPの25%資本注入(総額4兆元)その後銀行システムは体制を整えて不良  
債権は、新規設立の資産管理会社へ移管され競売された、システム全体では  
銀行の不良債権は2010年までに総資産の2%以下に減少(発展途上国は4～  
5%)～銀行システムは柔軟で実体経済の大崩壊を除けばどんなことにも耐えら  
れる。システム全体の貸与率は65%止まり(ヨーロッパで問題を起こした国は12  
0%)地方政府の債務は2010年現在で総額1, 7兆ドル(GDPの30%に相当)、  
貸し出しの約20%は不良債権化している、貸し出しの80%は信用力がある

### { 腐敗 }

～中国の清潔度は世界176ヶ国中80位、インド94位、ロシア133位、ブラジル69  
位(2012年現在)1996年以降最大の改善、2位ブラジル、3位インド、ロシア最悪

### { 中国温首相の言う「4つの不」 }

- ～中国経済がますます1. 不安定 2. 不均衡 3. 不調整 4. 最終的に持続不能～
1. 投資の過熱・過剰流動性・巨額の経常黒字
  2. 都市と農村部の分断・比較的裕福な東部と貧しい西部間の地域的な乖離
  3. 根深い地域の分断・製造業の過剰能力と未発達なサービス業間の乖離、  
過剰投資と不十分な民間消費の間の鮮明な乖離拡大
  4. 環境の破壊・汚染・所得分配面での拡大乖離

### { 米国と中国の共存・補完方向性 }

米国～借金の返済と貯蓄の再スタート、輸出・投資が主導する経済へ転換必要  
サービス部門は総雇用の68%、民間サービスの中の卸売・小売・余暇・ホスピタリ  
ティ・医療ケア専門的企業向けサービスは総雇用の50%(中国16%) 対GDP比  
でみた個人消費を現行の約69%から63～4%差額分を輸出か企業の支出へ振り  
向ける

中国＝生産者中心のモデルの過剰、輸出・投資の合計がGDP比シェヤアの70%強を3～5年で5%下げ、その分を国内の遅れている国内民間消費へ  
中国のサービス部門は2012年3, 5兆ドル2025年に12兆ドルの可能性  
中国政府が萌芽期にあるサービス部門の改革や規制緩和を通じて開放を一層推進する方向に動けば6兆ドルもの巨額に達する可能性もある

米国＝消費者中心社会の過剰

両国の過剰＝いずれを抑制するのが大変か・・・両方とも必要不可欠  
新たな成長源を見つけようとして苦闘している国、特に米国に好機は大きい  
米国は世界のサービス輸出の14%を占め、2位の2倍と優位なポジション

世界銀行はグローバルなサービス貿易の規制を103ヶ国の5部門に於て測定した  
(通信・金融・運輸・小売り・専門サービス) 包括的なデータベースでは百点満点でみると(百は完全に閉鎖的) 中国36, 6 インド65, 7よりかなり良い、  
但し日本23, 4 韓国23, 1 米国17, 7 ヨーロッパ26, 1 等とは劣る

IMF推計＝中国のGDPは名目で2013年約9兆ドル、米国16, 2兆ドル、2025年  
中国は28兆ドル世界1位へ

中国2011年個人可処分所得はGDP比45% (米国は77%) 所得増加と消費増加の間に高水準で増えている個人貯蓄が立ちはだかっている＝動機は恐怖を繁栄しており手ごわい(医療・年金など制度面の立ち遅れ)～2011年から20年で3億1600万人が地方から都会へ、全国の社会保障基金の受託資産・地方政府の基金・民間の年金合計で2. 7兆元は傘下労働者2億5700万人の配分@1690ドル中国の全労働人口7億6000万人では@565ドルにすぎない、医療プランに至っては13億人人口割で@年30ドルの給付に過ぎない

{ 米国が中国について不快に思っている事 }

人権問題・環境破壊・汚染・所得不平等の拡大等中国の内外で大いに注目されていることは氷山の一角に過ぎない、中国とその統治にとって大変難しい課題

～歴史は人権や腐敗を無視していく体制を優しく是認することはない

～2012年の大統領選挙の際、共和党・民主党は中国の事を悪魔のように扱った＝これは井戸に毒を流した行為であり、共生を学び見解の一致を見出し客観的にとらえる必要がある。7

中国インターネット利用者2012年13億人の42%、韓国82%、日本79%、米国78%  
インターネットの役割～中国では消費者規範より透明な統治を巡って分断された社会を結束させている、米国は分極化と分裂を助長し政府の機能不全に益々寄与技術的な優位性で長らく有名であった米国はこの時代における優れた技術的ブレークスルーを経済成長と持続的繁栄にとり建設的な力の転換面で中国に遅れをとるリスクを犯す